



真剣な表情で机の下に隠れる園児ら＝大東市

防災クイズで学ぶ 大東の園児ら

阪神・淡路大震災から17日、25年になるのを前に、大東市と四條畷署が14日、幼稚園児を対象とした防災教室を開いた。

参加したのは、大東中央幼稚園(同市)の年長の園児約130人。家で1人で遊んでいる時、家族と買い物に出かけた時、地震が起きたらどうするべきかをクイズ形式で学んだ。署員からは、実際に揺れていなくても机の下にすぐ隠れる、エレベーターには乗らない

などの注意があった。

その後、地震発生を知らせる警報が鳴ると、今度はみんな真剣な表情で、教わった通りに机の下に隠れた。参加した女子園児(5)は「教えてもらったことを家の人と話したい」。

四條畷署の渡辺岳文警備課長は「これまで大人に対しての防災教育はやってきたが、小さい命を守るための教育も必要。今後も継続したい」と話した。

(森下裕介)